



2010年(平成22年)11月3日(水曜日)

12版 社会 34

# 心に潜む天使と悪魔



布団を並べて寝る児童たち。人のぬくもりがないと、なかなか寝付けない=岐阜県の児童養護施設で

## 虐待の連鎖

### 疲弊する児童養護施設

「実習先生、ぼくの隣で寝るんだよ」「だめ! こっち来てよ」午後八時すぎ、真っ暗な室内で、小学校低学年の男児五人が次々と手を引つ張る。乱雑

4

に並ぶ布団の間で横になると、とたんに子どもたちの腕が伸びてきたり。手を握られ、脚をつかまれ、腹を触られ……。保育士などを目指す愛情の飢えを感じた。

学生が現場実習をする人にそんなことをする。「実習生」として、記「別に。何となく」だ。小学二年の男児は岐阜県の児童養護施設で四日間を過ごし、悪魔にもなる」。男性職員が冗談交じりに告げた一言が徐々に分かった。父親は数年前から行方不明のはず。「心で願っていたことが、彼にとっては眞実になってしまったんですね」

子もたちの過去はさまざまだった。知的障害を抱えた親の元に生まれた男児は、小学生ながら障害年金など家計の管理を一手に引き受け、貧しさに耐えながら何年も生きてきた。入浴中、目の前で父親が急死した男児もいた。

## 悲哀背負い愛情渴望

寝顔はいとおしかった。だが、かわいさだけではないのも現実だ。

遊戯室の掃除をして

いると、不意に背後から

いた。

女性職員がしみじみ

ちが理解しがたい行動をし、手が付けられないくなる背景の一つに、

女性職員がしみじみと続けた。「入所まで

ら蹴飛ばされた。振り向くと、小学三年の男児がニヤニヤしてい

る。「泣かないんだ。この前、女の実習生にやつたらすぐ泣いた。」「パパがサッカーボールを買ってくれるつ

り、つい口調が強くなり、ついに怒りが交じる。「男だろ。何で女の

落ち着きがなく衝動的に行動する多動症など、のうち、23%が心身に知的障害や愛着障害、

落着きがなく衝動的小さな体に想像もできないほどの悲しみや苦しみを背負い、子どもたちは必死に生きていた。

# 職員の暴力 疑問なく



サキさんが援助交際の場としていたコマ劇場前の広場。思い出したくないのでサキさんは新宿には近づかない（写真の女性は文中とは関係ありません）＝東京都新宿区歌舞伎町で

ルだ。おまえたちの行く所はどこにもないうだ。職員から言い聞かれていたサキさんは「私が悪いことをしたのだから仕方ない」と、ただ従つ毎日だった。中学三年の秋、施設に出入りしていたボランティア女性の通報をきつかけに施設の実態が明るみに出て、職員らは傷害容疑で書類送

たが、茨城暴力が激や友人たるい出され高校にき場もなやがてサトの部屋にきた。「ひげないと」はかけらふートを借り三の夏、敷

城の施設では  
しくなつた。  
うが次々と追  
しいつた。  
も通えず、懸  
弟たちは、  
十さんの施設  
施設に迷惑  
転がり込んで  
れない。アバ  
れいよ」。高  
松が守つてき  
るよ」。高

は学んで本來道が守らはずの施設にてほしの助けの者を悉くた。施設のためなる。

なら子どもたち  
が遊べるべき場所の  
施設。「社会が  
もっと目を向け  
い。自分が何か  
になりたい」。  
サキさんは教育  
設や制度を変え  
に「語り部」に  
そう決意した。

守られず 福祉不信に

十八歳からの一年間、サキさん(三)は仮名は援助交際をした。東京・新宿の歌舞伎町で、路上に座つては声を掛けてくる見知らぬ男を待った。アパート代を稼ぎ、かつて茨城県の児童養

- 3 -

護施設で一緒に暮らして、弟や友人たちを養うためだつた。その施設にサキさんと弟と一緒に入所したのは八歳の時。入所者は小さな子どもだけ、職員は全員が女性。その女性職員らに、「これがうちのルーム」とも尻をたたかれた。「疲れた。マッサージして」と別々の職員の要求を断ると、気付いたときには医務室のベッドにいた。殴られて腫れ上がり、がつた自分の顔が、手洗い場の鏡に映つた。

大人なんて、もう信じ  
できないと思つた。  
自分たちを支配し  
いた暴力から解放さ  
ると、次は子ども同  
じで、より弱い子への  
力が始まつた。サキ  
んは高校進学のため  
都内の施設に移つてい

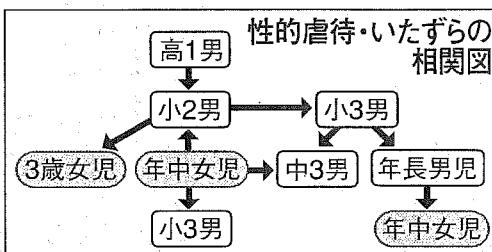
それでも、過去を恨んでばかりでいいのか  
疑問に思っていたと  
き、茨城の虐待問題で  
知り合った弁護士に会  
った。「施設に入つて  
いる子どもたちに、同  
じ思いをさせたくない  
い。何かしたい」と相

# 虐待の連鎖

よる「暴力の支配」が検された。「自分たちたためるために、新宿に横行していた。」が受けていたのは「虚向かった。

# 大人の死角 力で支配

ん(一九)＝仮名は、同性から受け続けた性的虐待の経験を話し始めた。



※前あいち小児保健医療総合センター心療科部長  
が介入した施設の事例の一部。行為内容には、  
抱きつく、キスなどを含む。

級生や弱い子を支配していく。性的虐待は、その手段の一つだ。ケンタさんを集中的に襲っていた当時の中学生も、かつては上級生に性的虐待を受けていた。

杉山さんは「養育する側も性教育の知識を持つないと、問題を予防したり改善したりできない。施設は慢性的な人手不足という構造的な問題もあり、気付かぬうちにまん延する恐れがある」と指摘す

が加害者であり、被害者だった。あの時の状況なら仕方なかった」と許した。

社会人になつた今では、たまに連絡を取り合い、仕事のことなど近況を話す間柄だ。ただ、過去については決して触れない。

「思い出したくもない過去。でも、同じような問題が施設から無くなつてほしいから」。

序の口。会議などで職員の目が離れる十日の昼食後や、見回りが無くなる就寝時間後が怖かった。上級生の命令た

# 性暴力拡大気付かず

で、殴りたくない相手とけんかをさせられるのは、苦痛で仕方なかつた。

児保健医療総合センター  
心療科部長が数年前、治療のために介入した東海地方の別の施設では、三十人余りの児童・生徒の九割が性的虐待に巻き込まれていた。家庭で性的虐待を受けて入所した児童がほかの子どもに加害するようになり、被害

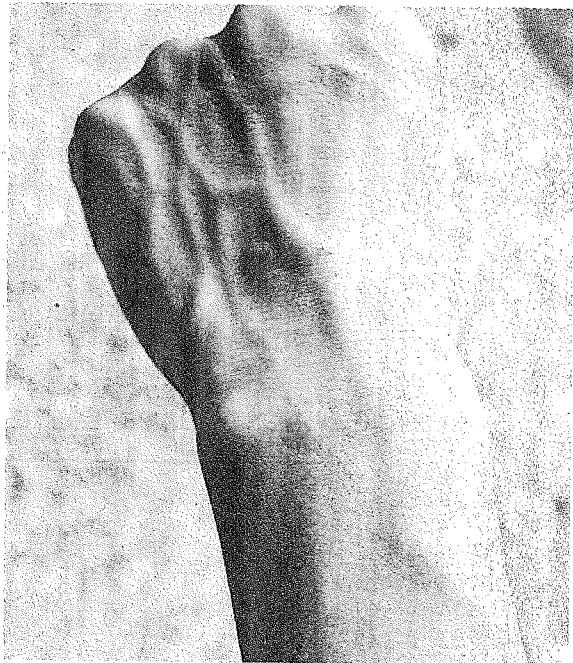
ケンタさんへの虐待の日々は、小学校高学年まで続いた。報復が怖くて職員には言えなかつた。その後、施設では、職員が「問題が起きたら見て見ぬふりをせず、職員も子どもも全員で話し合う」という対策を徹底し、暴力は沈静化した。

## 虐待の連鎖

## 疲弊する児童養護施設

## 虐待の連鎖

# 傷つけられ 傷つけた



アキラさんの左手薬指は、幼稚園の時に母親のライターの火であぶられたやけどが残る

抑圧された感情発散

「このまま家に帰つたら君は殺される」。アキラさん(二)＝仮名=が中学二年の時、万引が見つかって店に駆け付けてきた教師が言った。

教師は、親の虐待を知つていた。そのまま一時

「鎖」

る児童養護施設

保険所に預けられ、一方  
月後、望んで愛知県内の  
児童養護施設に入所し  
た。「やつと、あの親か  
ら離れられる」と思う  
と、うれしかった。

虐待は幼稚園に通うこ  
ろには始まっていた。ト  
りのだけ」。廊下や部屋

をどがめられ、「同じ痛  
みを味わいなさい」と、つた。  
母親に左手首をつかま  
れ、ライターの火であぶ  
られた。

実母と再婚相手の義父  
との間に生まれた五歳下  
の妹と四人家族。母親は  
仕事で夜が遅く、小学生  
になると、部屋の掃除や  
洗濯をやらされた。「親  
がいない幼児一中学生の

た」ということだけ。現在は大学で福社を学ぶ。施設を逃げ出して暴走族と付き合い、問題児として移された別の施設で、職員が進学を勧めてくれた。

「力ネがない」と断るど、奨学生制度のある大學を探してきてくれた。「信用していい大人もいるんだな」。大人はすべて親と一緒に何でも抑えつけてくると嫌悪しているのに。人に感謝するこ

妹だけをかわいがる親の関心を引こうと、やる気もないのに「勉強頑張るから」と問題集を買ってもらい、全くやらずに殴られた。自分を良く見親からいわれのない虐めらいためについたうそがされると、包丁を突きつけられ、マンション最上階のベランダから突き落とされそうになつた。毎を見るのが楽しみだつめらいなく撃つた。ささいな文句を言われただけで怒り狂って突き飛ばした。

児童虐待の急増に伴い、被害児童が児童養護施設に多数入所している。心に受けた傷は、時に他者への暴力に置き換わる。そうした子どもたちのシェルターであるべき施設で暴力がやまない現状を報告する。||

の隅に取り残したゴミが、も集団行動。四人部屋で、連絡を取っている。恨みあつたりすると、いきなり殴られた。頭を押さえ寝起きし、学校に通つた。もない。手首に残る直径つけられ、沿槽に沈められた。相部屋の知的障害のある男の子には、プロレス技を掛けていた。

次第に親への思いも変わった。優しくなった母親とは、三年ほど前から

一回でくなら  
いじめられ  
たのに。人に感謝するこ  
とを初めて知った。

「力ネがない」と断る  
と、奨学金制度のある大  
学を探してきてくれた。  
「信用していい大人もい  
るんだな」。大人はすべ  
て親と一緒に何でも抑え

現在は大学で福祉を学ぶ。施設を逃げ出して暴走族と付き合い、問題児として移された別の施設で、職員が進学を勧めて

## 虐待の連鎖

## 疲弊する児童養護施設

面參照